

「古事記の世界」 藤川秀之絵本原画展を開催して

石 倉 昭 子

2013年1月15日は、藤川さんの「古事記の世界」絵本原画展の最終展示会場、島根県立古代出雲歴史博物館での片づけの日でした。大阪から同期の押田良樹さんもお帰りになり、松江からの11期生5人と出雲部の11期生3人の合計9人で慣れた手順でテキパキと作品を撤収しました。展示会を始めた頃から考えると、随分作品の扱いも片づけも上達したものです。

2012年8月1日に、第1回の展示会を松江歴史館で開催してから5会場での展示会を全部終了したことになります。いよいよその最終日が来たのです。振り返ってみると様々なことが、思い出されます。

実施した展示会場と会期

展 示 会 場	場 所	会 期
1,松江歴史館ロビー	松江市殿町	2012年8月1日(水)～ 8月31日(金)
2,松江市立 出雲玉作資料館ロビー	松江市玉湯町	2012年9月4日(火)～ 9月30日(日)
3,島根県八雲立つ 風土記の丘資料館ロビー	松江市大庭町	2012年10月3日(水)～ 11月5日(月)
4,立正大学淞南 高等学校図書室前廊下	松江市大庭町	2012年11月6日(火)～ 11月20日(火)
5,島根県立古代出雲 歴史博物館情報交流室	出雲市大社町	2012年12月19日(水)～ 2013年1月14日(月)

2011年6月に、藤川さんの紹介活動を皆さんと共に話し合い、8つばかりの活動を実施してきました。

最終的には、展示会を開催することが全員の願望でしたが、紹介活動を始めてから僅か1年あまりで展示会が実現できるようになるとは、誰も想像できませんでした。

先輩の加藤尚子さん(同期,押田さんの姉上8期)から数々のご指導を受け県の「神々の国しまね実行委員会」“地域の歴史文化イベント”事業に採

扱され、タイムリーに古事記関係の絵本原画展開催が決定したのです。

10年前に加藤さんが、藤川さんの絵本を図書館で発見され、押田さんが、2011年4月末に藤川さんの表紙絵2枚をメール添付で送ってくださっていなかったら、この活動は全く成立していなかったでしょう。このお二人がいらっしゃらなかったら何も始まっていなかったのです。

私達、松高11期生には還暦の頃から『松^{まつ}高^{こう}士^{むらい}』というボートの団体がありました。その団体に、文化部門の藤川プロジェクトも合体させていただき、体育、文化等の各方面に活動・活躍している同志を有志により応援・支援活動を行うことを事業目的にしていくことになりました。

代表者を、同期の庄司肇さんに引き受けていただき、先輩の加藤さんと、大阪在住の押田さんには、顧問として指導に当たっていただくよう了解をとりました。

展示会までの準備は、先ず、45枚の絵の額縁製作を依頼することから始まり、展示会場と会期の決定、県や松江市に後援依頼をすること、チラシ・ハガキ用の絵「スサノオ幻想」の撮影を押田さんをお願いし、チラシ・ハガキの印刷注文、各会場と報道を含む関係諸機関へのお願い、絵の下に貼るキャプションの準備等々・・・初体験の仕事がたくさんありました。

加藤さんの細やかなご指導と行動力に感服しながら、準備日数も余裕があり、何よりも展示会ができるという無上の喜びで関係者は必死に頑張りました。特に、松江在住の7R藤川さんのクラスメートはよく働きました。

広報のチラシ(300枚)・ハガキ(1,000枚)の印刷が完了した頃に、11期の幹事会を事務局長の金津さんに開いていただき、皆さまに各方面への広報活動をお願いすることになりました。チラシは市内の公の場に貼っていただくようお願いし、ハガキは、鑑賞していただけそうな11期生や、同窓生その他に投函や配布をお願いしました。押田さんは、近畿方面の60人の同期生にもハガキを投函してくださいました。

その頃、加藤さんと繋がりのある山陰中央新報の山田記者から、絵本原画展の紹介をしたいという申し出があり、11期生の8人に集まってもらい藤川作品を鑑賞している場面を撮影し、これまでの経緯をお話ししました。

この記事が7月26日の山陰中央新報に「著名挿絵画家 実は松江出身」

『藤川さん初の“凱旋個展”』という記事になって掲載されました。

山陰中央新報 2012年(平成24年)7月26日(木曜日) 山陰 26

著名挿絵画家 実は松江出身
藤川さん 初の“凱旋個展”

藤川秀之さん

同窓生企画 地元で応援の輪

松江出身の挿絵画家。家・藤川秀之さん(70)が、上京から半世紀余を経た今夏、初めて故郷で個展を開く。藤川さんの母校、松江高校(現・松江北高)の同窓生たちが企画し、8月から来年1月まで鳥居東部の4会場を巡回。神話を題材にした絵本原画の数々を並べ、古事記編さん1300年を迎えた郷里に、さらなる彩りを添える。

藤川さんは、松江高の心の中まで読める「校から中央大学、さらにデザイン学校へ、進んだ。その後、東京を拠点に活動し、芥川龍之介原作の「杜子春」など、70冊を超える絵本の挿絵を手掛けると同じ年だったため、

同窓生企画 地元で応援の輪

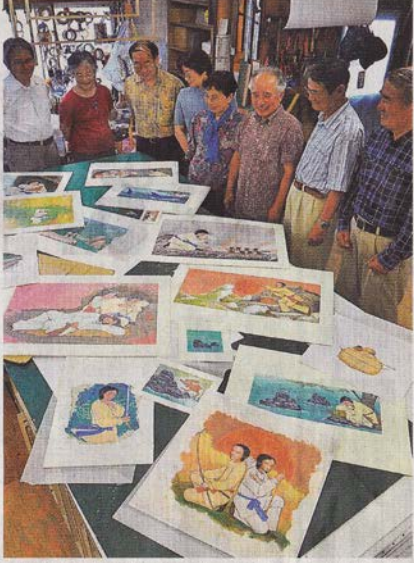
同窓会名簿を調べる。藤川さんの名前が。地元に応援の輪を広げようと、押田さんら

同窓会の「松高士」は、昨年からは藤川さんのPR活動にスタート。昨年7月には、藤川さんを招き、母校の母衣小や松江中、松江北高を巡り、絵本や原画を寄贈してもらった。

古事記編さん1300年に合わせ、松高士が主催する絵画展では「海幸山幸」「オオクニヌシといなばの白うさぎ」など、神話を題材に揃った原画45点を展示する。

8月1日に松江歴史館(同市殿町)で始まり、来年の1月14日まで、古民芸歴史博物館(出雲市大社町)など4会場を巡回。

藤川秀之さんの初の地元個展を企画した「松高士」のメンバー＝松江市石橋町、額装の「サニー大山」



2012年7月31日 いよいよ第1回の展示会場、松江歴史館での展示準備の日になりました。展示場所はロビーの壁面でしたが、スペースの関係で、前半展示は「スサノオノミコト」6枚と「オオクニヌシといなばの白うさぎ」13枚を展示することになりました。夕方からの展示準備には、加藤さんと、11期生の10人が集合し作業にあたりました。





松江歴史館の展示期間中には、忍者道具の展示をはじめ、「忍たま乱太郎」の原画展や、からくり忍者屋敷体験など忍者イベント開催があったので、夏休みでもあり相当な賑わいでした。藤川さんの挿絵絵本も展示したので、多くの子ども達も楽しんで鑑賞していました。

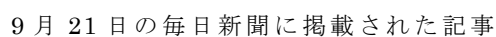
8月7, 8, 9日には、藤川さんも帰省されてギャラリートークの3日間は約100人の参加者で大盛況、多くの11期生、同窓生、市民の方々も傾聴してくださいました。夜は、26人の参加者で藤川さんを囲む会を賑やかに開くことができました。

8月16日には、松江歴史館の休館日、後半の展示作品「海幸彦・山幸彦」18枚と「オオクニヌシノミコト」4枚に入れ替え作業をしました。

2012年9月3日は、第2会場の松江市立玉作資料館での展示準備でした。この日は、館長さんと島大から学芸員実習に来ていた2人の大学生も交えて11期生の4人とで、合計7人で展示作業にあたりました。

玉作資料館は、緑豊かな静かな環境の中にあり、落ち着いた展示会場で

この会場での展示については、毎日新聞が9月21日に記事を掲載してくださいました。ここでもやはり前後半の展示になりました。



この日は、大阪から帰省された押田さんを含め 11 期生 7 人と、加藤さんと 8 名で展示をしました。展示パネルは、加藤さんがお勤めの湊南高校からお借りすることになりました。



2012 年 11 月 5 日に風土記の丘資料館での展示片づけを終え、そのまま立正大学淞南高校に作品とパネルを運搬し展示準備をしました。第 4 会場です。12 月 19 日からの歴史博物館展示までの間があり、急遽展示決定となりました。展示場所は、図書室前の廊下でしたが、生徒がたくさん通過する場所で多くの鑑賞者が期待できました。教員の方も、生徒もお手伝いいただき順調に展示できました。淞南高校の H P にも記事が掲載され、押田さん作成の藤川作品「古事記の世界」45 枚のネットアルバムも閲覧できるような配慮もありました。

展示会の記事が、浜南高校パンフレットに掲載されました。



2012年12月18日は、いよいよ第5会場の最終展示場所、島根県立古代出雲歴史博物館の展示準備の日でした。

展示場所は情報交流室で、かなり広い場所でしたが壁面が全部使えないので、ここも前後半2回に分けて展示することになりました。

この日は、出雲部の11期生3人も応援していただき、松江からの11期生7人とで合計10人で展示作業をすることになりました。



ここでの展示は、歴博の会場担当者が展示案内文、キャプション等も全部作り替えてくださって、かなり展示に期待されている感じを受けました。

会期中にお正月が入っているので、多くの観光客の皆様には「スサノオノミコト」「オオクニヌシといなばの白うさぎ」の原画を鑑賞していただけるのではないかと担当者的なお話しでした。



展示期間中の来館者数を概算すると、松江歴史館 4,500 人、玉作資料館 531 人、風土記の丘資料館 2,330 人、宍南高校 350 人、古代出雲歴史博物館 3,000 人になり、合計 10,711 人になりました。尚、東京でのグループ展を含めて 11 期の方々が約 90 人鑑賞してくださいました。

報道関係では、開催期間中に山陰中央新報から 3 回、その他の 2 社の新聞社から計 2 回の紹介記事が掲載されました。テレビ報道では、日本海テレビニュース、松江、出雲、平田の各ケーブルテレビからの取材や放映もありました。これらの藤川さん関係の情報はすべて、押田さんがネットア

ルバムや、You-Tube で同期生にネット配信していただきました。

また、チラシ・ポスター用に藤川さんが描かれた「スサノオ幻想」が、大学教育学会のポスター（島根大学作成）に採用されたり、松江市立図書館館報の表紙に採用されたりしました。確実に藤川さんとその作品が郷里に浸透し、かなり紹介実績をあげたように感じられました。

さらに、この活動を実行していく中で、松高 11 期『松高士』の連帯感、一体感が強まり、同期の交流が広く深くなって行ったのも大変大きな収穫でした。遠くは北海道、関東方面、関西方面の同期生の方々も帰省時に展示会に立ち寄っていただき親交を深めることができました。

この度の 5 会場での展示会が成功裡に終了できたのは、加藤さん、押田さんの姉弟と、『松高士』の方々の強力なバックアップのお陰だと心から感謝しています。特に展示会の準備に毎回参加いただいた庄司、金津、藤井の各氏に 7 R のメンバーと共に、厚くお礼を申し上げます。

来年度も引き続き、場所を変えて展示会を継続いたします。県立美術館での展示も検討中です。一層のご協力を宜しくお願いいたします。



大学教育学会ポスター



松江市立図書館館報「ちどり」